

平成 29 年 2 月 16 日
株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント

30 代と 40 代の間にある結婚観の壁 生活者意識調査より

－ 『R&D CORE（生活者総合ライフスタイル調査システム）』 調査結果発表 －

株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント（所在地：東京都新宿区、代表取締役：五十嵐 幹）は、2016 年 10 月に 18～79 歳の首都圏の一般生活者を対象に「生活者総合ライフスタイル調査システム CORE 2017」を実施いたしました。

『CORE』は 30 年以上にわたり毎年実施している自主調査であり、生活意識態度を多岐にわたり継続して聴取しています。

今回は最新の調査から分かった、年齢や性別によって異なる「恋愛・結婚と幸せとの関係性」についての調査結果をご紹介します。

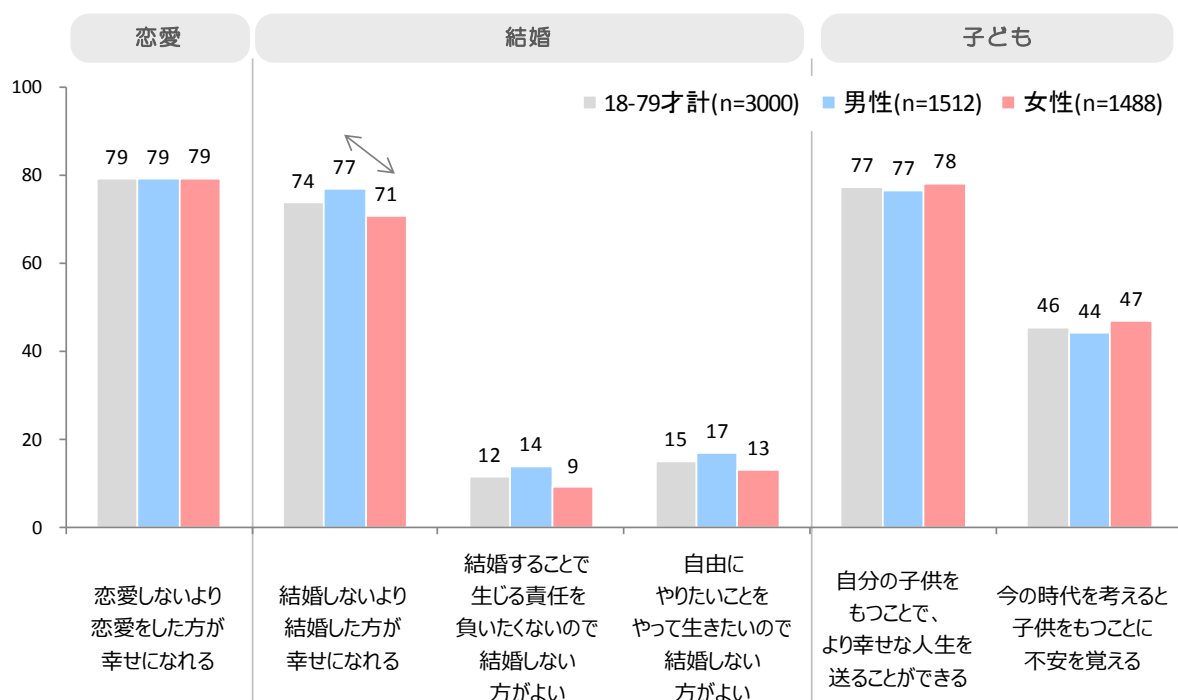
“男女ともに7割以上が「恋愛・結婚をしたほうが幸せ」「子供をもつことでより幸せ」と回答”

- 「恋愛した方が幸せ」「自分の子供をもつことでより幸せ」は男女ともに 8 割程度。
- 「結婚した方が幸せ」は女性よりも男性の方がやや高い。

（図1）恋愛や結婚に関する意識 ※「そう思う」「ややそう思う」の合計

（そう思う/ややそう思う/あまりそうは思わない/そう思わないの4段階で聴取）

（%）



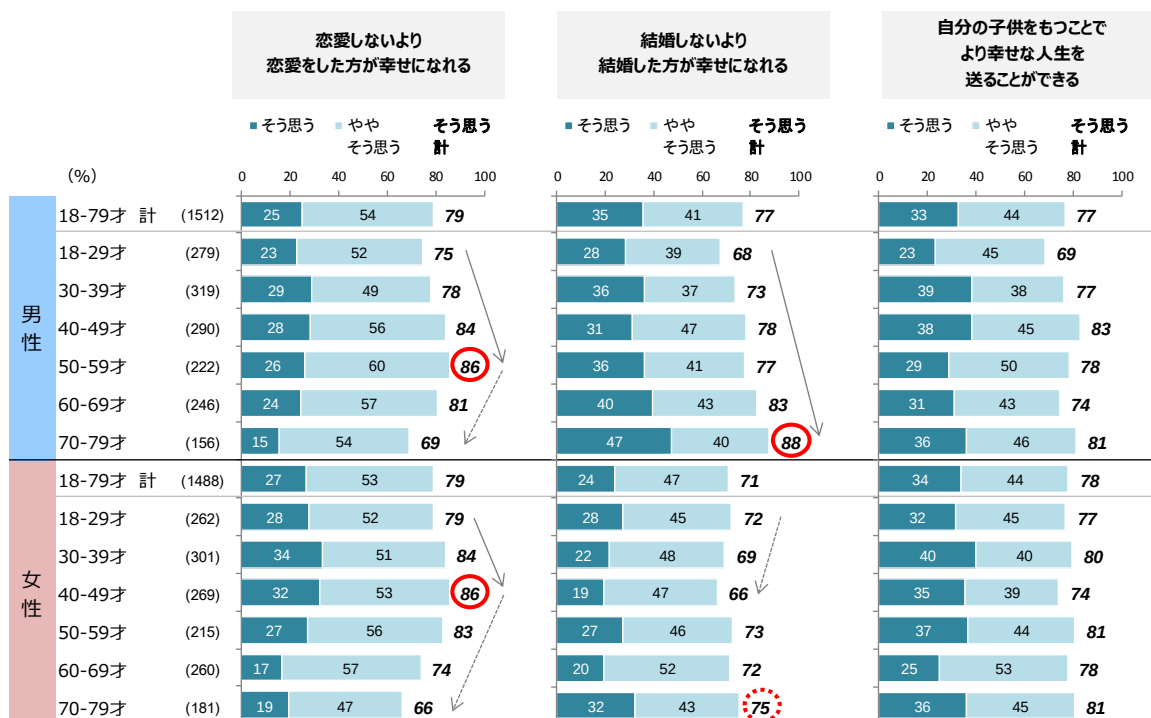
※(株)R&D「CORE2017（2016.10）」より作成

“「恋愛した方が幸せ」は男性では50代、女性では40代がピーク”

- 「恋愛しないよりした方が幸せ」に対して、「そう思う」計は男性では50代、女性では40代にピークを向かえ、それ以降は下降。
- 「結婚しないよりした方が幸せ」は、男性は年代とともに上昇し、70代では約9割。一方女性は40代まで一旦下降し、その後は上昇するものの、70代で75%と同年代男性を10pt以上下回る。

(図2) 恋愛や結婚に関する意識(性年代別) ※「そう思う」「ややそう思う」の合計

(そう思う/ややそう思う/あまりそうは思わない/そう思わないの4段階で聴取)



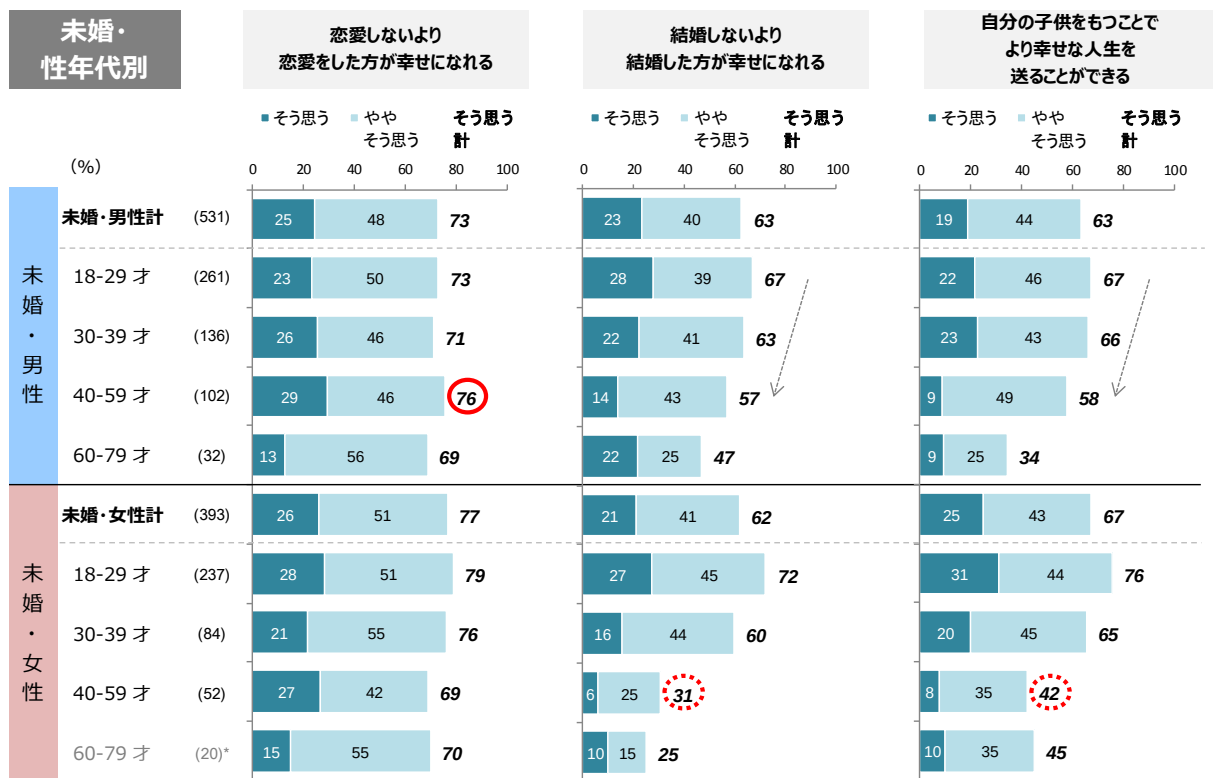
※(株)R&D「CORE2017(2016.10)」より作成

“30代と40代との間が結婚・出産に対する考え方のターニングポイント”

- 未婚者の性年代別で見ると、未婚男性の「恋愛した方が幸せ」は40-50代が最も高い。
- 未婚男性の「結婚したほうが幸せ」「自分の子供をもつことでより幸せ」は40-50代まで緩やかに下降する一方、未婚女性は40-50代で大きく落ち込む。結婚・子供に対する幸せ意識が30代と40代の間で大きく減少しており、考え方のターニングポイントになっていると思われる。

(図3) 恋愛や結婚に関する意識(未婚・性年代別) ※「そう思う」「ややそう思う」の合計

(そう思う/ややそう思う/あまりそうは思わない/そう思わないの4段階で聴取)



*サンプル僅少のため参考値

※(株)R&D「CORE2017 (2016.10)」より作成

R&D 発 生活者インサイト

◇未婚女性の考える幸せ意識は「結婚すること」よりも「子供をもつこと」

未婚者を性年代別でみると、「恋愛した方が幸せ」については男女とも「そう思う」計（そう思う・ややそう思う）の割合は 7 割以上、「結婚した方が幸せ」「子供をもつことでより幸せ」よりも高い結果となりました。「結婚」と「子供」については、未婚男性はほぼ同程度ですが、未婚女性は「結婚した方が幸せ」よりも「子供をもつことでより幸せ」の意識の方がやや高いようです。

◇未婚女性の「結婚」「子供」に対する幸せ意識のターニングポイントは 30 代から 40 代

「結婚した方が幸せ」については、未婚男性では年令とともに緩やかに下降しますが、未婚女性では 40-50 代で大きく低下します。同年代の男女で比較すると、未婚男性・40-50 代が 57%に対し、未婚女性・40-50 代では 31%。未婚男性は 40-50 代でも半数以上が「結婚した方が幸せ」と感じていますが、40 代を超えた未婚女性は男性ほど「結婚」を「幸せ」とは感じていないようです。「子供」についても同様に、未婚女性は 30 代と 40-50 代で「幸せ」と感じる割合が大きく低下します。未婚女性は 30 代から 40 代になる時に、結婚・子供への意識のターニングポイントがあるようです。

調査結果の詳細につきましては、**無料ダウンロードレポート『生活者属性別で変わる 恋愛観・結婚観』**をご覧ください。

（弊社ホームページよりダウンロードいただけます）

今回、発表しましたデータを含む R&D CORE（生活者総合ライフスタイル調査システム）2017 単年の集計表を 100,000 円（税別）にて販売しております。（18～79 才まで性年代別等基本分析軸での集計表アウトプット）

R&D CORE（生活者総合ライフスタイル調査システム）を利用した調査・分析：課題の洗い出しから分析アウトプットまで、R&D スタッフがお手伝いします。

詳細につきましては弊社ホームページ <http://www.rad.co.jp/> をご覧ください。

■CORE 2017 調査概要■

調査名： CORE2017 マスター調査
 調査地域： 首都圏 40km圏(調査地点 200 地点)
 調査対象： 18～79 歳男女個人
 サンプル数： 有効回収 3000 サンプル（人口構成比に合わせて、性×年代別を割付）
 サンプルング手法： 住宅地図を用いたエリアサンプルングで抽出
 調査手法： 訪問・郵送併用の自記入式留置調査
 調査実施時期： 2016 年 10 月(毎年1回 10 月実施)

※『CORE』は、株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメントの登録商標です。

■会社概要■

会社名： 株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント
 所在地： 〒163-1424 東京都新宿区西新宿 3-2 0-2
 代表者： 代表取締役社長 五十嵐 幹
 資本金： 30,000 千円
 設立： 1968 年 1 月 17 日
 URL： <http://www.rad.co.jp>
 事業内容： マーケティング・リサーチの企画設計、実施及びコンサルテーション
 経営・マーケティング活動の評価及びコンサルテーション

《引用・転載時のクレジット表記のお願い》

本リリースの引用・転載時には、必ず当社クレジットを明記いただけますようお願い申し上げます。

＜例＞「(株)リサーチ・アンド・ディベロプメントが実施した調査によると・・・」

■お問い合わせ先■

- 本分析担当：
 - 株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント マーケティングソリューション部（水野）
- 本資料に関するお問い合わせ：
 - 株式会社リサーチ・アンド・ディベロプメント セールスプランニング部（小林）
 - TEL：03-6859-2281 e-mail：radnews@rad.co.jp